

令和7年度 第4回 有玉小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 2025年12月8日(月)10時00分から11時30分まで
- 2 開催場所 有玉小学校図書室
- 3 出席委員 石田 隆康、中村 佐佳恵、山本 恭子、松原 廣、村田 実佳
高林 愛子(学校支援コーディネーター)
- 4 欠席委員 高林 和行
- 5 オブザーバー 小池 誠(積志協働センター)
- 6 学 校 伊藤 千恵(校長)、上野 仁悟(教頭)、本桎 俊介(主幹教諭)
中城 幸之助(CS 担当教員)、安村 有季子(CSディレクター)
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 安村 有季子
- 9 議長の選出

議長の選出について、中村委員が本日の議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1)授業参観
- (2)熟議(「学校評価、学校関係者評価」について)
- (3)報告

11 会議記録

司会から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1)授業参観(10:10~10:30)

授業参観について説明があった。(教頭)

学校評価の項目の説明と、どのような視点を持って参観していただくかの説明があった。(本桎)

(2)熟議(学校評価の説明)

「今年度の有玉小学校の教育活動」について、子供、保護者、教員のアンケートに基づく学校評価の結果とその分析結果の説明があった。(本桎)

議長の指示により委員による意見交換を行った。

- ・「家庭や地域との連携が成長につながっている」の評価について、保護者の評価が昨年度より低いのは、地域の行事が少なくなっているからなのか。(石田委員)
- ・昔のように集まる機会が減っているのが原因にもあるのではないか。(中村委員)
- ・子供たちの評価と先生方の評価にギャップがあるのは、どのような理由があるのか。(中村委員)
- ・子供たちと教員の評価基準にギャップがあるからではないか。教員の評価がこれだけ高いのは珍しく、地域のサポーターが協力してくださっているのが教員に伝わっており、それが児童にも伝わっているが、保護者にはまだ伝わっていないのではないか。(本桎)

「学校が分析した成果と課題」について委員による意見交換を行った。

- ・児童によっては、外で遊ぶ子と室内で遊ぶ子が二極化している。健やかな体を保つためにも体育だけでは足りないと思うので、外で遊ぶ環境作りもしたら良いのではないか。(高林委員)
- ・運動が好きな子の二極化を改善するためにも、自分で目標をもって取り組むように、授業を通して身体を動

かす喜びを伝えられたらと思う。(本檜)

- ・子供たちの「褒めてほしい」という気持ちに寄り添うサポーター、褒めサポーターがいたら良いのではないかな。(高林委員)
- ・運動についても子供発のイベントができれば楽しいかと思う。(本檜)
- ・学習面について自分の考えや意見が言えているかが実際には分からない。(村田委員)
- ・相手に自分の気持ちを伝えるというのは、相手との信頼関係も大切になるのではないかな。(中村委員)
- ・「考えを分かりやすく相手に伝えることができていく」の評価について、子供たちと先生たちのギャップがあるのはなぜかな。(中村委員)
- ・ただ伝えるのではなく、「分かりやすく」というところで教員たちの評価と子供たちの評価にギャップが出たのではないかなと思う。(本檜)
- ・三世代交流事業で地域の交流イベントとしてお餅付きをしたが、自分の知らないことを学ぶということは、有玉小のグランドデザインにもある「豊かな心」「学び合う」に繋がる良い機会だなと思った。(松原委員)
- ・学校でも地域の方を招いた体験学習があるが、今後学校としてはどのような考えを持っているかな。(中村委員)
- ・体験や具体物の操作を大事にしている。有玉小のグランドデザインの根幹に、コミュニティスクールによる学校運営協議会有り、その方針のもと様々な授業支援をしていただいたり、お琴の体験や、医大の助産師さんによる命の授業をしたりして、子供たちが教科書以外の事を学ぶ機会が多いことが強み。色々な体験ができる環境作りということでも、今後も地域の方の御協力をお願いしたい。(本檜)
- ・先生方はタブレット授業やICTを使いこなすのが大変そう。(山本委員)
- ・先生方はICTの研修等をされているのか。(中村委員)
- ・一人一回授業公開をして研修をしている。今年は、「ICTを活用する」をサブテーマとして、ICTに詳しい教員が講師となり使い方を校内で伝達したり、夏休みには専門の講師による研修をしたりして、現在はほとんどの教員がタブレット授業ができるようになった。今年度検証した結果を参考に、来年度どのようにICTを取り入れていくかを考えたい。(本檜)
- ・ICTを使うことが目的ではなく、ICTを使った事が効果的であったかを検証しながら効果的な使い方を皆で検証し、確認しながら進めているところである。(校長)

「有玉小学校評価を受けて、より伸ばしていけるところ、気になるところ」「改善点、改善方法の提案」について委員による意見交換を行った。

- ・自然に素直に「ありがとう」と言える子がもっと増えると良い。(高林委員)
- ・「ふわふわ言葉」の強化月間を設定しているところが良い。(中村委員)
- ・子供たちがお餅つきのとくに積極的に動いている子供が多い。(松原委員)
- ・コロナもありコミュニケーション不足になっていたが、学校の取り組みもあって良くなっている。(中村委員)
- ・保護者と教員との評価にギャップがあるので主体性を伸ばす取り組みを学校でできれば良い。(石田委員)
- ・主体性を持って自分たちでできることを増やしたい。子供たちの思いやりを大切にしていきたい。(本檜)
- ・廊下を走らない、ヘルメットをかぶる等家庭からの声掛けしてもらえたら安全への意識をもっと高められるのではないかな。(高林委員)
- ・まとめとして、グランドデザインでも掲げている学校運営協議会やが家庭や地域との連携が土台ということで、子供たちと関わる機会を増やしたり、ボランティアや地域でのイベントだったり、皆で子供たちを育てていくというところをまた新たに考えていきたい。具体的な改善方法として、子供たちと触れ合う声掛けや働きかけを私たちもしていきたい。(中村委員)

(3)報告

学校支援コーディネーター(高林愛子)より、学校支援活動について報告があった。

・10月中旬～活動報告

5・6年生家庭科ミシンサポート、読み聞かせトロの会、6年生夢講話、園芸委員と花壇に花を植える、3年生有玉伝説の地域の本の読み聞かせ、3年生総合授業のサポート、3年生有玉神社へ行く際の安全サポート、昼休み安全サポート、ひまわり学級サポート等の支援を行った。

・12月中旬～活動計画

CS 研修会、掲示板作成、1年生昔の遊びを遊んでいただく、6年生夢講話、4年生琴の授業、昼休み安全サポート、ひまわり学級サポート等の支援を行う予定。

CS ディレクター(安村)よりコミスク便り発行についての説明があった。

12 その他報告事項等

議長から、次回の議長選出について委員に意見を求めたところ、村田委員が議長を務めることを申し出、全員異議なくこれを承認した。司会から、次回会議は2026年2月17日(火)10時00分から11時30分の日程で開催する旨の報告があった。